

第三者評価結果の公表事項(乳児院)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②評価調査者研修修了番号

SK15163 第 2006-03 号第 2006-05 号第 2012-03 号

③施設の情報

名称：麦の穂乳幼児ホームかがやき	種別：乳児院
代表者氏名：横川 哲	定員（利用人数）： 15 名
所在地：岐阜県中津川市千旦林 1 4 6 8 - 5 2	
TEL：0 5 7 3 - 7 8 - 0 2 7 0	ホームページ：http://www.muginoho-gifu.com
【施設の概要】	
開設年月日 平成 1 3 年 4 月 1 日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 カトリック名古屋教区報恩会	
職員数	常勤職員： 27 名 非常勤職員 3 名
専門職員	(専門職の名称) 名
	施設長 1 名 家庭支援専門相談員 1 名
	指導員・保育士 19 名 里親支援専門相談員 1 名
	看護師 3 名 調理員 2 名
	栄養士 1 名 事務員 1 名
	心理職 1 名
施設・設備の概要	(居室数) (設備等)
	プレイルーム 寝室 3 室 会議室 1 室 母子養育指導室 1 室 小規模グループケア 2 ヲ所 子育て支援短期利用室 1 室 観察室 事務室

④理念・基本方針

【理念】 隣人愛 ～すべての人々を大切にする～

【基本方針】

麦の穂乳幼児ホームかがやきは、カトリック精神である隣人愛に基づき、子どもひとりひとりを愛し、大切に育てます。人間の人格形成は乳幼児期の関わり・育て方によって大きく

左右されることを職員相互が真剣にとらえ、愛される喜び、温かく抱擁される心地よさを味わうことができるホームづくりに努めます。

麦の穂乳幼児ホームかがやきは、子ども達の未来が幸せいっぱいになり輝くように願いを込めて「かがやき」と名づけました。隣接する児童養護施設麦の穂学園、子ども家庭支援センター麦の穂との協力体制を重視し、職員相互の交流、研修を大切にし、同時に地域に開かれた子育て支援の場所として機能を生かした運営に努めます。

【職員の心得】

- か・・・語り合おう
- が・・・学習しよう
- や・・・優しい心と柔らかな態度で
- き・・・キラキラした子ども達の目の輝きを大切に

⑤施設の特徴的な取組

- ・子どもたちが恵まれた自然の中で四季を体験しながら、各種の専門スタッフのもとで元気に、心豊かに育っていく環境がある。
- ・地域との交流が多く、キャンプ、フェスティバル、夏祭り等学園行事や地域行事に相互参加する等、地域に向けて積極的な働きかけを行っている。今年度は中津川子育てサロンで施設の会館を活用し、職員が親子遊びを提供する取り組みを行っており、地域の施設への理解につながっている。
- ・一人ひとりの育ちを大切にして、思い出のアルバム作りをしている。
- ・保護者への働きかけも、定期的な手紙や写真で、根気よく伝え、その後の親の気持ちの変化にもつながった事例もあり、今後も継続して欲しい取り組みである。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成28年7月13日（契約日）～ 平成29年3月31日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1回（平成25年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

<基本方針に子どもを尊重するという基本姿勢を示している。>

毎月のグループ会議で乳児院倫理綱領、子どもを尊重した養育支援について読み合わせ、意見交換を行っており、養育の在り方を振り返ることで共通理解をしながら、子どもの最善の利益を目指して子ども本位の養育・支援に努めている。また、養育マニュアルを整備し、子どものプライバシーが守られるよう配慮した養育・支援に取り組んでいる。

＜日々、支援のふり返しをして向上に努めている。＞

グループ会議やカンファレンス等で日々の養育・支援をふり返し、改善していく機会を設けている。また毎月の会議の中で倫理綱領の読み合わせを行っている。養育・支援の向上のため研修では一人一回は課題を提出し、それについて全員で話し合い、検討している。職員に向上心があり、自己啓発・能力アップを施設全体で後押ししている。自己評価をし、自らケア・技術をふりかえっている。

＜子どもの発達を支援する環境を整えている。＞

入所以前の子どもの発達状況、家庭・生活環境等を把握し、子どもの発達状況や生活状況に応じて柔軟に養育に取り組んでいる。子ども一人ひとりの状況について全職員が情報を共有し、養育マニュアルに基づき、統一的な意識のもとで適切な関わりに努めている。

＜発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。＞

おもちゃの部屋では、子どもたちが種類別におもちゃを片付けられるように、おもちゃを片付ける位置を示したカードを作成している。子どもたちはそのカードを見本に定められた位置にきちんと片づけができるようになっている。施設は自然に恵まれ、戸外で自然に触れながらのびのびと遊ぶことができる環境にある。またクッキー等のおやつ作りも積極的に取り入れ、食材のにおいや手触り、味を楽しんでいる。

＜病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。＞

子どもひとり一人の健康状態の変化について常に把握できるよう、日頃から観察に心がけ、毎日の申し送りで健康状態について職員と共有している。薬の保管は看護師が責任者となり、与薬表を基に厳重に管理している。薬の種別で色分けしているのも、誤与薬防止につながっている。緊急の場合は迅速な対応ができるよう、病・虚弱児についても嘱託医との連携体制が整っている。

◇改善を求められる点

＜今後の施設の持つ専門性を活かした公益的な事業活動への取り組みに期待したい。＞

社会福祉法人改革の流れの中で、今後、社会福祉法人の使命として、公益的な事業活動がますます重要になってくる。公益活動はこれからの分野であるので、地域の子どもの拠点施設として地域のニーズを捉え、例えば、施設の持つ専門性を活かし、手作りおもちゃ、片付け、収納、保育・養育技術、離乳食等々での様々な方策、日常的に業務の中で培われている施設の専門性を提供できる方策を検討する等、今後この分野での活動の拡充に向けた取り組みに期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

子どもたちの生活体験を広げて主体性を伸ばし、遊びを充実させる環境設定や養育内容について、振り返りを通して「よりよくしていこう」と取り組みをおこなってきたことを評価していただき、現場の職員の励みにもなると感じます。

「改善が求められる点」は公益活動について、施設の持つ専門性を地域へ提供できる方策を検討して欲しいと期待されています。今年度は地域の子育てサロンでの親子遊びの提供を開始しました。法人内で地域支援への取り組みを充実させていく中で、自分たちにできる地域支援の取り組みを実践していきたいと考えています。

評価機関としても、乳児院の取り組みが社会で子どもを守り育てる上で、大切な役割を担う機関のひとつであると認識して頂き、社会全体に対して理解を深める役割を担っていただきたいと切望します。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。